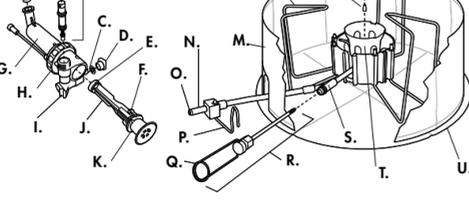


INSTRUCTION MANUAL



DRAGONFLY® STOVE

Retain these instructions for future reference.



危険



屋外使用専用

一酸化炭素の危険

本製品は、無臭の一酸化炭素を発生する可能性があります。

密閉された場所で使用すると、死亡事故に至る場合があります。キャンピングカーやテント内、前室、車内、屋内等、換気の悪い場所では、ストーブを絶対に使用しないでください。

安全のための注意事項

本製品や他のストーブの近くで、ガソリンまたは引火性のある液体あるいはガスを保管したり、使用したりしないでください。

一酸化炭素、火災、爆発の危険

本製品と燃料の使用により、重大な危険が生じる場合があります。失火や爆発、誤用により、死亡事故や重度の火傷、物的損害を引き起こす恐れがあります。使用者には、自分自身の安全および周囲の人の安全の責任があります。この取扱説明書（以下「本説明書」といいます）を熟読し、適切な判断を行ってください。燃料ボルトを取り付ける前に、取り扱いは必ず本説明書に従ってください。本説明書は、後頁参照であるよう大切に保管してください。

本製品は、水を煮沸させたり、調理するために設計された、屋外調理用の軽量コンパクトなストーブです。その他の用途には絶対に使用しないでください。屋外での調理は、家庭での通常の調理とは異なる危険が伴います。屋外での調理に関するお問い合わせ、不備な点については、お近くのアウトドア店へお問い合わせください。

次の安全情報に従ってください。

燃料ボルトをストーブに取り付ける前に、フューエルポンプの O リングが正しくセットされ、破損・磨耗等していないことを確認します。O リングに破損・磨耗がある場合は、ストーブを使用しないでください。

ストーブや燃料ボルトは、他の熱源の近くに保管しないでください。燃料ボルトが高温にさらされると、燃料漏れや爆発を引き起こし、死亡事故や重度の火傷を引き起こす恐れがあります。

燃料ボルトに記載されている使用上・保管上のすべての警告に従ってください。

本説明書に記載されていないストーブの分解を行わないでください。本製品を改造しないで行った場合、本説明書の指示と一致しない場合、また改造は、保証が無効になります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。

部品が欠けたり破損している場合や、専用交換部品以外が使用されている場合は、ストーブを使用しないでください。部品が欠けたり破損している状態や、専用交換部品以外が使用されている状態では、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。

カスケードデザインの保証は、適切なサイズの MSR® ブランドの調理器具を使用した場合にのみ適用されます。MSR® ブランド以外調理器具の使用については、ユーザーご自身の責任と判断にて使用してください。

危険 以下に示す場合は、ストーブを使用しないでください。(1) 本説明書をすべて読み、完全に内容を理解する前。(2) 熱いストーブや燃焼中のストーブの取り扱いに慣れておらず、安全な方法で、燃料源を発生し、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。

ストーブとフューエルポンプの構成部品

- A. チェックバルブ
- B. コントロールバルブ
- C. フューエルチューブ
- D. フューエルチューブ
- E. ボンブキャップ
- F. フランジャー
- G. ボンブ本体
- H. フューエルポンプの溝
- I. フューエルポンプの溝
- J. フランジャー
- K. フランジャーブッシング
- L. 五徳
- M. ウインドスクリーン
- N. フューエルライン
- O. フューエルライン
- P. フランジャー
- Q. フレームアジャスター
- R. フレームアジャスター
- S. フレームアジャスター
- T. バーナーキャップ
- U. ヒートリフレクター
- V. シェット
- W. フレームスプレッダー
- X. シェイクーニードル

ストーブの整備

ストーブやフューエルライン内にゴミがあると、燃料の流量が減少し、ストーブの性能が低下します。ジェット内に微量のゴミがある場合、シェイクーニードルを使い、詰まりを解消する必要があります。定期的に、ジェット内はフューエルラインの定期的なクリーニングが必要になる場合があります。「ストーブの整備」は、最低でも年 1 回、あるいはポンプの整備を実施するまでに行ってください。

シェイクーニードルを使用したジェットのクリーニング

1. コントロールバルブを閉め、ストーブが冷めるまで最低 5 分間待ちます。2. ストーブを上下に揺ります。ジェット内のシェイクーニードルがカタカタ鳴ることを確認します。3. ストーブをプレヒートしてから作動させます。状態が改善しない場合、「ジェットとフレームアジャスターバルブ Assy のクリーニング」を参照してください。

ジェットとフレームアジャスターバルブ Assy のクリーニング

1. フレームスプレッダーを外します。2. ジェットとケーブールツールを使い、ジェットを締めます。この作用を大きくするには、Dragonfly 専用のクリーニングツールとジェットとケーブールツールを合わせて使用します。3. シェイクーニードルを取り出します。注意: ジェットを交換する場合は、新しいジェットにシェイクーニードルをセットしてから組み立てます。4. ジェットの開口部をジェットクリーニングワイヤーを使いクリーニングします。5. フレームアジャスターバルブを 2 回回転させます。6. 固定ナットをジェットとケーブールツールで締めます。フレームアジャスターバルブを完全に締めます。7. 親指の爪またはジェットクリーニングワイヤーを使い、フレームアジャスターの溝端をクリーニングします。8. Dragonfly 専用のクリーニングツールでフレームアジャスターヘッドを取り付けます。ツールを時計回りまたは逆時計回りに約 20 回回します。9. フレームアジャスターチューブを硬い面の上で軽くたたき、割れた堆積物を取り除きます。10. フレームアジャスターバルブ Assy を元の位置に差し込み、しっかりと締めます。11. フューエルラインに燃料を通します（フラッシング）。ストーブにポンプで燃料ボルトを接続します。10~15 回ポンプで燃料を加圧します。ポンプ本体のコントロールバルブとフレームアジャスターバルブを完全に閉じ、スプーン 4 杯程度の燃料をフューエルラインに押し出し、適切な容量に排出します。（ジェットは取り除きません。）**危険** 引火しないようご注意ください。

フレームアジャスターバルブを再度開き、フラッシングを繰り返します。フレームアジャスターバルブとポンプコントロールバルブを閉じたまま、フューエルラインを外します。フラッシング後は、燃料を安全に廃棄してください。12. ストーブを組み立て直します。状態が改善しない場合は、「ジェットとフレームアジャスターバルブ Assy のクリーニング」を再度行ってください。

フューエルラインフィルターを交換する

1. 安全ピンを使いフューエルラインフィルターを取り外し、新しいフューエルラインフィルターを硬く平らな面に置き、フューエルラインの先端をフィルターに合わせます。フィルターが完全に中に入るまでフューエルラインの端を押します。

ポンプの整備

O リングの寿命は、時間が経つと劣化してひびがけたり裂けたりする場合があります。その場合、使用前には必ず O リングを点検してください。劣化したひびが入った O リングはすぐに交換してください。また、経年劣化に関わらず、年 1 回は必ず O リングを交換してください。交換用の O リングおよびポンプシールは、デュアルメタニクスキットまたはエクスプレッションサービスキットに含まれており、お近くの MSR® 販売代理店でお求めいただけます。

ポンプシールは、時間が経つと劣化してひびがけたり裂けたりする場合があります。その場合、使用前には必ず O リングを点検してください。劣化したひびが入った O リングはすぐに交換してください。また、経年劣化に関わらず、年 1 回は必ず O リングを交換してください。交換用の O リングおよびポンプシールは、デュアルメタニクスキットまたはエクスプレッションサービスキットに含まれており、お近くの MSR® 販売代理店でお求めいただけます。

危険 MSR® メタニクスキットを使用する場合、O リングの下に O リングを取り付けずに、火災や火傷、重傷の怪我、死亡事故に至る危険な状況を引き起こす恐れがあります。

チェッカーバルブのクリーニング

1. チェッカーバルブ Assy を回して、外します。2. チェッカーバルブ Assy をポンプのくぼみから拭き取ります。3. チェッカーバルブ Assy を差し込んで元に戻します。

危険 本説明書に記載されていないストーブやポンプの分解を行わないでください。本説明書の指示と一致しない方法でのストーブやポンプの分解は保証が無効になります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。

部品が欠けたり破損している場合や、専用交換部品以外が使用されている場合は、ストーブを使用しないでください。部品が欠けたり破損している状態や、専用交換部品以外が使用されている状態では、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。

DRAGONFLY® ストーブ操作手順

死亡事故や重度の怪我に至らないよう、必ず、本説明書を熟読してください。本説明書に書かれた手順、警告などすべての内容を、必ず、充分理解した上で、書かれていることすべてに従ってください。

本製品の使用前には必ず各パーツについてよく理解をし、その上で以下の手順に従ってください。本製品は、液体燃料を気化して燃焼させるためにプレヒートを必要とします。ストーブのプレヒートについては、手順 3 を参照してください。

燃料について

Dragonfly® ストーブは、2 種類の取替可能なジェットを使用して、様々な燃料を使用することができます。

- 1. DG ジェットは、ホワイトガソリンと自動車用無鉛ガソリンに使用でき、ストーブに予め取り付けられています。
- 2. DK ジェットは、灯油、軽油、ジェット燃料に使用でき、ストーブの部品キットに含まれています。ジェットを交換する場合は「ジェットとフレームアジャスターバルブ Assy のクリーニング」をご覧ください。

有鉛燃料を使用しないでください。MSR® SuperFuel™ ホワイトガソリン（日本未発売）以外の燃料を使用すると、ストーブの詰まりや、ジェットおよびフューエルラインのクリーニングの必要が生じる可能性があります。また、自動車用無鉛ガソリンを使用すると、ストーブの寿命を縮める可能性があります。

海外で購入可能な燃料の名称や、安全なストーブの持ち運びについての情報は www.msrgear.com をご覧ください。

燃料ボルトの準備

Dragonfly ストーブには、様々な燃料が使用できるよう交換可能なジェットが 2 本付属しています。使用する燃料の種類に合ったジェットを選ぶには、「燃料について」をご覧ください。1. 燃料ボルトの溝タナインを超えないでください。燃料膨張のために、空気スペースを残しておきます。2. 燃料ボルトにポンプを挿入し、しっかりと締めます。3. 燃料ボルトを加圧する前に、漏れがないことを確認してください。4. ボンブコントロールバルブを閉じ、フランジャーをポンピングします（20~30 回）。燃料ボルトの中央が少し凹む場合、ポンピング回数をさらに多くして加圧する必要があります。しっかりと抵抗が感じられるまでポンピングします。

燃料ボルトの準備

燃料ボルトは、MSR® 燃料ボルト以外使用しないでください。MSR® 燃料ボルト以外を使用すると、燃料漏れや爆発、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。ストーブや燃料のそばに可燃物が近づかないようご注意ください。初回は 3 分以内に十分な量を消費します。フューエルライン、ポンプ、燃料ボルトは決して外さないでください。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。

1. ストーブの設置

3 本脚の五徳を開きます。2. パーナーとフューエルライン Assy を回転し、所定位置にセットします。3. フレームアジャスターバルブ Assy を開きます。フレームアジャスターバルブを開きます。4. ストーブをヒートリフレクターの中央に置きます。

危険 可燃物は、燃焼しているストーブや点火しようとしているストーブの上部および周辺から少なくとも 1.2 m 離してください。引火性のある液体やガスは、燃焼しているストーブや点火しようとしているストーブの上部および周辺から少なくとも 7.6 m 離してください。本製品は、可燃物、引火性のある液体やガスを引き起こす恐れがあります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。

2. ストーブとポンプの接続

1. フューエルラインの先端全体に唾液またはオイルを塗り、ポンプが上向きになるよう燃料ボルトを横向きにします。2. フランジャーをフューエルラインの溝にしっかりと固定します。安全確保のため、フューエルラインをしっかりと保ちます。燃料ボルトは、ストーブから離れた位置に置きます。

危険 使用毎に、燃料ボルト、ポンプ、フューエルライン、パーナー、ストーブの下、ストーブの周囲に燃料が付着していないことを確認してください。燃料が付着していると、燃料が燃焼したときに燃焼し、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。

3. ストーブのプレヒート

1. 燃料ボルトのボンブコントロールバルブを開きます。2. フランジャーキャップ 1/2 杯分の燃料を出します。フレームアジャスターバルブを開き、ジェット内に燃料が流れ込むようにします。3. フレームアジャスターバルブを開きます。4. 燃料を含んだ布（ワック）に点火します。通常、点火直後の炎はサッカーボール程度の大きさになります。

危険 ストーブのプレヒート中、点火中、燃焼中は、顔や体がストーブの上部にこないようにしてください。点火直後の炎は、燃焼しているストーブの上部にある状態は、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。

4. ストーブの点火

1. プレヒートの炎が小さく弱まるまで待ちます（約 2 分間）。プレヒートが失敗した場合は、ストーブの炎が燃焼するまで最低 5 分間待ちます。2. フレームアジャスターバルブを 1/2 回転回してバルブを開き、青く安定した炎になるまで待ちます。3. ゆっくりとフレームアジャスターバルブを開き、燃料を増やし、火力を強めます。

危険 ストーブが冷めた状態で、決して再点火を行わないでください。再点火する前に、必ず、火が消えている状態で、5 分間待ちます。ストーブの周囲が再び燃焼するときは、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。

5. 調理目的でのストーブの使用

1. ウインドスクリーンを設置します。ウインドスクリーンの端を合わせます。最適な性能を得るため、ウインドスクリーンと調理器具の間に、2.5 cm の隙間を残します。炎と空気を遮るものがないことを確認します。ウインドスクリーンの使用により、あらゆる条件下での性能が向上します。2. 調理器具に食材や液体を入れます。3. ストーブの中央に調理器具を置きます。4. 燃料ボルト内の圧力を維持します。圧力を維持するため、10 分間毎に約 10 回ポンピングします。ポンピングの際は燃料ボルトをしっかりと押さえます。

危険 燃料ボルトは、ストーブや他の熱源の近くに保管しないでください。燃料ボルトは、できる限り、燃料ボルトから離れた位置に保管してください。燃料ボルトは、燃焼しているストーブや点火しようとしているストーブの上部および周辺から少なくとも 1.2 m 離してください。引火性のある液体やガスは、燃焼しているストーブや点火しようとしているストーブの上部および周辺から少なくとも 7.6 m 離してください。本製品は、可燃物、引火性のある液体やガスを引き起こす恐れがあります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。また、火災、火傷、重度の怪我、死亡事故等を引き起こす恐れがあります。